

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

世界史

歴史的な見方・考え方を生かして、
社会に貢献する市民性を育む



愛知県立^{おおぶ}大府高校

野々山 新 ののやま・しん



同校に赴任して2年目。
地理歴史科(世界史、地理)。進路指導部。

学校概要

◎設立 1949(昭和24)年 ◎形態 全日制・定時制/普通科・生活文化科(全日制)/共学 ◎生徒数(全日制) 1学年約320人

◎2022年度卒業生進路実績(全日制) 国公立大は、北海道大、信州大、愛知教育大、三重大、広島大、愛知県立大、名古屋市立大などに64人が合格、私立大は、國學院大、駒澤大、愛知大、金城学院大、中京大、南山大、立命館大、近畿大などに延べ590人が合格。

私が
目指している
授業

「世界史探究」で扱う内容は、私たちが住む世界とは時間軸や空間軸が異なります。「世界史探究」を学ぶと、視野を広げて異なる視点で考えることの重要性を認識できます。そして、自分とは異なる立場で多面的・多角的に物事を捉えられるようになり、現代の諸問題の解決策が考えやすくなります。そうした学びを実現するため、生徒の固定観念を揺さぶり、相対化させる問いを設定するとともに、生徒の関心を踏まえた資料を提示することに力を入れています。生徒が歴史的事実を学ぶだけでなく、歴史的な見方・考え方を働かせて社会をよりよくしたいという意識を持てるような授業づくりにまい進しています。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

授業レポート

本時の概要

- [対象] 2年生 [教科・科目] 地理歴史・世界史探究
[単元] 諸地域世界の交流・再編
[テーマ] 交易は人々にどんな恩恵をもたらしているのか
[単元目標] 資史料の多面的・多角的な考察を通して、ヒト・モノ・情報の移動がもたらす影響を自分の言葉で表現する。
[授業時数] 全10時間のうちの8時間目



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。 <https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 予習した内容をペアで確認 5分間



野々山先生の授業では毎回、問題集の指定された問題を解いてくることが予習として課される。授業の冒頭では生徒がペアになり、予習で解いた問題を出し合うなどして重要事項を確認した。その間、野々山先生は「交易は人々にどんな恩恵をもたらしているのか」と板書し、本時の問いを生徒と共有した。

2 画像資料との対話 15分間



本時の問いを考察するための5つの小問に取り組んだ。1問目は、北宋の都を描いた画像2点から読み取ったことをペアで話し合う問題だ。「この都市は繁栄していると言えるか」と野々山先生が問うと、「画像に関連する文字資料があるとよい」「データがあると判断しやすい」といった声が生徒から上がった。

3 文字資料との対話 25分間



2・3問目では宋代の官僚などが市中の様子を記した複数の文書を、4・5問目では民衆の反乱が発生した場所や年代、発生の背景を表した資料を読み、交易が何をもたらしたのか、ペアで話し合った。野々山先生が「どう考えた?」と問うと、生徒は「繁栄しているが、格差が広がっているようだ」と答えた。

4 本時の問いの考察を記述 5分間



生徒から考察を聞いた後、「異なる資料を比べたら、新たに発見があったね」と野々山先生。最後に生徒は、「交易活動が生み出す富は、人々を『つないで』いるのだろうか」という問いに対して、「身分の異なる人たちをつないだとは言えない」などと、自分の考察をプリントに記入した。

発問・課題設定の観点



生徒の固定観念を揺さぶる

単元を貫く問いを設定

単元を貫く問いは、生徒の関心と単元目標を踏まえて設定しています。本単元を貫く問いは、「歴史総合」での学習を通じて「交易はよいもの」と捉えている生徒を揺さぶろうと、「『交易の拡大は世界の繁栄に貢献した』にどの程度賛同するか」としました。そして、単元を貫く問いにつながる問いを各時で設け、その考察を積み重ねた上で、最終的に単元を貫く問いを考察するという単元構成にしています(図1)。なお、本時の

図1 本単元の問い(全10時間)

単元を貫く問い「交易の拡大は世界の繁栄に貢献した」にどの程度賛同するか。

- ① 交易の拡大がもたらすものは？
諸地域世界の交流・再編の学習に向けた問いを抱かせる。
- ② アフリカの視点から交易を見ると？
アフリカ史から問いを検証する。
- ③ 対立は交易にどう影響するの？
十字軍に関する歴史から問いを検証する。
- ④ なぜ対立しているのに、交易が盛んになるの？
十字軍の影響から問いを検証する。
- ⑤ 交易は国王の権力にどんな影響を与えたの？
王権の伸張に着目して問いを検証する。
- ⑥ 交易の影響は文化をどのように変質させたの？
中世欧州の文化史から問いを検証する。
- ⑦ 経済の影響は中国でも共通する？
中国宋代史から問いを検証する。
- ⑧ 交易は人々にどんな恩恵をもたらしているの？(本時)
経済活動と人々のかかわりに着目して問いを検証する。
- ⑨ モンゴルは壊し屋？ 運び屋？
軍事と経済の関係から問いを検証する。
- ⑩ 「交易の拡大は世界の繁栄に貢献した」にどの程度賛同する？
これまでの考察を踏まえて意見を記述。

※学校資料を基に編集部で作成。

問いは「交易は人々にどんな恩恵をもたらしているのか」としました。

本単元では、中国や欧州、アフリカなどの歴史を扱います。古くから世界各地で進むグローバル化の過程の学習を通じて、交易を軸に歴史を構造的に捉えることができるようになるでしょう。「歴史総合」の成果を活用した探究学習は、世界史の理解を深め、社会をよりよくしていく市民性が一層磨かれると考えています。

授業では、生徒の考察が浅いと感じたら、生徒間で考察を比較するために話し合わせたり、着目すべき点を指摘したりして、段階を踏んで考えられるよう、支援します。そして生徒間で小問の考察がまとまったら、次の小問に進むよう、声をかけます。

学習評価の工夫

単元ごとに

自分の考察を記述する

パフォーマンス課題を実施



単元末には、単元を貫く問いの考察を記述するパフォーマンス課題に取り組ませ、「思考・判断・表現」の評価をしています。重要事項を押さえて、自分の考察を記述することができてB評価、自分の考察から新たな問いを創り出すことができたならA評価などとしています(図2)。

生徒は1時間かけて課題に取り組みます。なお、教師が一方的に評価するだけでは、学びに対する受け身の姿勢から抜け出せないと考え、相互評価を取り入れています。生徒間で考察を吟味することで、歴史的な見方・考え方を洗練し合う学習空間になってきたと感じています。また、相互評価を試行する過程で、生徒による評価と私の評価が一致していき、生徒による評価を参考にすることで、結果として効率よく評価ができるようになったという一面もあります。

図2 パフォーマンス課題の問いとルーブリックの例(抜粋)

◎単元の問い：万里の長城は世界遺産でよいのだろうか

遊牧民と農耕民、オアシス民の接触や融合、対立や分化について考えてきたことを踏まえて、人為的国境であった万里の長城を世界遺産とすることはふさわしいか否か、グループで表現してみよう。(以下略)

	知識	資料史の活用	課題に向き合う粘り強さ
A	授業で学習した前3世紀から7世紀までの中央ユーラシアの諸部族を時系列に沿って取り上げ、その概要を教科書や資料集を基に的確にまとめており、その成果が本単元の問いに対する考察に効果的に反映されている。	資料史や事実を根拠に論理的に説明しつつ、扱っている資料史を作成した人の立場や目的を踏まえた表現活動をしている。	本単元の問いに正解がないことを前提としながら、自分たちなりの意見を明示するとともに、その意見の限界や問題点を指摘し、さらなる探究活動の必要性を自覚している。
B	中央ユーラシアの諸部族を複数取り上げ、その概要を教科書や資料集からの確にまとめて説明している。	説明における根拠として、資料史や事実を活用した表現活動をしている。	問いに対して、自分たちなりの意見を明示している。

※学校資料を基に編集部で作成。

定期考査では、知識及び資料史を読み解く技能を見る問題を約6割、根拠に基づいて思考・判断して自分の考察を表現する記述式問題を約4割の比率で出しています。



海外に開いた授業で「市民性」を育む

生徒に市民性を育もうと、海外の高校生との交流授業などを実施し、学びを教室の中だけに閉じず、社会に開いています。意識しているのは、生徒が世界の時事的な問題にリアルタイムに向き合えるようにすることです。2020年にタイでデモが発生した際には、タイの高校生と日本の高校生が対話を通じてデモに対する認識を深める授業を、22年度には戦時下のウクライナで医療支援活動を行う日本人医師と対話する授業を行いました。



写真1 中国の高校生との合同授業は、「世界史探究」の時間に実施。オンラインで上海市甘泉外国語中学とつないだ。発表に対して相互に質問が出るなど、活発なやり取りが行われた。

Ⅲ. 日中間の高校生対話から、日中の友好進展に向けて感じたこと、学ぶべきと思ったこと、行動すべきと思ったことなどを感情のままに表現しよう

- 同じ「鉄道」というテーマでも日本と中国で取り上げる部分が異なり、視点の違いを感じた。
- 日本と中国の間に触れにくい話題もあったが、それを互いに乗り越えて友好関係を築くためにもそのことについて知り、理解を深める必要があったと思った。
- 中国のことについてまだまだ知らないこともたくさんあったので、今回と同じように詳しく調べてみたい。

写真2 合同授業に参加した同校のある生徒は、「両国の友好関係をつくるためにも、両国が触れにくい話題について理解を深めることが必要だ」と記した。中国の生徒との対話を通して、両国の関係に対して自分に何ができるのかを考えた様子がうかがえた。

●中国の高校生と合同で行った歴史の授業

23年度は、中国で日本語を学ぶ高校生と本校の生徒が、「鉄道の歴史に見る日本、中国、アジアの意義と課題」をテーマに、それぞれで調べたことを発表し合う合同授業をオンラインで実施しました(写真1)。

興味深かったのは、どちらの生徒も鉄道は経済発展に貢献したとしつつ、日本の生徒が鉄道の敷設による環境破壊や公害の発生といった負の側面に着目したのに対し、中国の生徒は自動車の減少などにより環境保護につながっているとポジティブに捉えていたことです。本校の生徒は、そうした中国の生徒との共通点と相違点を感じ取っていました(写真2)。

●異文化との交流が多面的・多角的な思考を促す

中国とは歴史認識などに関する難しい問題もありますが、日中友好のためには対話の継続が必要不可欠です。今回の合同授業に参加した生徒からは、中国が身近な存在に感じられたといった声が聞かれました。そのように、異文化との交流を通して多面的・多角的に思考し、表現する経験は、未来を担う生徒の市民性の向上に確実に繋がると考えています。

成果と展望

探究のサイクルが回り、人生につながる
資質・能力が育ちつつある



単元末に行うパフォーマンス課題では、どの生徒も正解か不正解かにとらわれず、自分の考察を表現することができるようになっています。うれしいことに、生徒の授業アンケートには、「歴史は暗記科目ではなく、未来に生かす科目というイメージが変わった」との記述も見られます。そうした生徒の言動から、問いを立て、考察し、検証する探究のサイクルが回り、学校教育の枠を超えて生涯活用することができる問題解決能力が育ちつつあると、手応えを感じています。

また、生徒は、探究には歴史的事実の知識が必要だと理解し、知識の習得にも主体的に取り組むようになりました。それが模擬試験の好成績につながっていると考えています。

これからも生徒同士や生徒と教師の対話を中心とした授業を通して、生徒に市民性を育んでいきます。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任